

会議結果（要旨）

会議名	第3回 余市町交通結節点検討委員会
開催日時	令和6年3月5日 午前10時30分
開催場所	余市町中央公民館 301号会議室
出席者	委員：出席7名 欠席3名 アドバイザー：出席1名
会議内容	<p>※「⇒」委員・アドバイザーの発言、「→」事務局発言</p> <p>1. 開 会</p> <p>2. 報告事項</p> <p>→1. <u>前回の協議内容について説明（資料P2）</u> ⇒質問なし</p> <p>→2. <u>地域公共交通実態調査（2回目）調査結果概要について説明（資料P3）</u> ⇒2月の平日に調査をしなかった理由は。 →休日2日、平日2日での実施を予定していたが、12月は都合により平日2日と休日1日になってしまったため、残りの休日1日分を春節に合わせて実施した。</p> <p>3. 協議事項</p> <p>→1. <u>新たな交通結節点の在り方について説明（資料P5～6）</u> ⇒質問なし</p> <p>→2. <u>規模算定結果と施設計画について説明（資料P7）</u> ⇒本数が多い地区というわけではないため利便性で言うと方面別に分けるのが良い。分けるのであれば4つで十分と考える。バスの待機については、そこに始発のバスがあるかどうかポイントになる。鉄道代替バスの導入に係り、再編が行われることが想定されるため、現時点では何とも言えない。恐らく余市発着の長距離のバスは、起点終点型とならないため、本計画値で十分であると見込まれる。</p> <p>⇒駅前広場計画指針の数値を考慮しているから良い。</p> <p>⇒鉄道代替バスの導入により、バス網やサービスは今後見直される可能性があり、調整が必要となる。</p> <p>→3. <u>レイアウト検討案について説明（資料P8～12）</u> ⇒A案（JR用地活用案）の場合は、本工事が終わるまでの暫定時においてはどのように運用していくことが可能か。 →現在の駅前交番の前にあるバスプールと町営第二駐車場を活用することで対応可能であると考える。 ⇒暫定時に規模が確保できるか、そしてJR廃線後にその暫定施工が本施工へ影響があるものが気になる。 →暫定整備の考え方は、現在の十字街のバス停を駅前へ収容するという考え方となるため、規模が不十分となることは想定しにくい。また暫定施工は道路と広場の敷地変更に対する小規模な整備であるため、本施工への影響はないと考える。</p> <p>⇒A案が魅力的に感じる、ただし都市計画道路登川線の整備が前提となることが気になる。 →A案における都市計画道路登川線の整備は、必要条件ではなく十分条件ではある。特にバスのロータリー進入による利便性を最大限とするためには必要と考える。ただし、2030年時点では整備されていないことが濃厚であり、登川線を整備しなくても出入りできるレイアウトを検討している。</p>

⇒提示の案について、アクセス動線が長く時間がかかる印象である。距離的、時間的ロスが多い場合は、路上で良いという判断となりかねない。

⇒事例紹介として、函館市の亀田支所に島式ホームのターミナルがある。島式ホームは、検討に値するのでは。

⇒バスが幹線となるのであれば、タクシーバースなどの位置にバスバースがあって欲しい。間違いなく、バスよりもタクシーや自家用車のほうが小回りは利く。バスが西側で回れるかどうかは車両軌跡次第である。

⇒バス停を敷地内で設置するなら、ある程度自由に配置することは可能であるが、路上に配置する場合は道路交通法上、交差点からの距離などの制約がある。

⇒バス交通は、公共性の高い交通機関であり、バスに配慮した計画としたほうが良い。ロータリーに入って、時間をかけずにすぐに走行に戻れるようにすべきである。またレイアウトの議論にあたっては、今後コストも併せて提示いただくのが望ましい。概算であっても判断材料の一つとなる。

→4. 今後の検討の流れについて説明 (資料 P13)

⇒レイアウトは本協議会で決めるのか。

→交通事業者・道路管理者との個別協議を経て本協議会での判断を尊重する形で最終的には余市町が決めることとなる。

⇒来年度のいつごろか。

⇒不確定要素が多いため、時期まではつかめていない。並行在来線対策協議会等の動向に注視していく。

→5. 本分科会について説明 (資料 P14)

⇒質問なし

3. その他

→令和6年度について、駅前のレイアウト案の決定と駅前基本構想の策定を予定。併せて利便増進計画の策定を検討しているので、適宜協議会で議論していきたい。

4. 閉 会